



としたいと思う。

その第一点は、報告者の数をもう少し減  
じるとともに、報告時間を厳守するように  
し、討論の時間をなるべく多くすることに  
ある。そして、その報告に対する質疑は報  
告直後すませることにし、総合討論では十  
分に向題について討論をすることができ  
るようにしたいと思う。一般に討論のばあい  
には、細かい質問や技術上の質疑は、個人  
的にやることにして、総合討論はもちろ  
ん報告後の質疑討論も、共通のテーマに集  
めるようにすべきである。

第二点は、以上のことと関連するが、共  
通のテーマについて十分な討議ができて、  
新しい収穫をえてかえることができるため  
には、テーマをしぼった方がよいと思う。  
テーマをしぼるといふことは、一見して参  
加者が少くなるように思われるが、たとえ  
ば、「農地改革による地主権力の変遷」と  
いうようにしぼるとき、これは、各集落分  
野から共通的に研究できるし、いろいろの  
村について研究しうるはずである。そうす  
れば、報告しない人々も自分が調査した村  
ではこうであった、という形で討論に参加  
でき、各種の調査が出しあわされて、比較  
分析が行われ、理論的な収穫をえて会を閉  
じることができ、本陣のような形では、  
報告大会にはなっても、研究大会にはなり  
かたい。報告時間を限定して参加者が討議  
に活発に参加できるように、報告者の報

告主題が明確でなければならぬと同時に、  
討論すべきテーマも集中できるように限ら  
れなければならぬ。

以上の意見には、もちろん短所もあるう  
が、要は、村研の大会が、一般の学会大会  
のようになるべきでないとするれば、多少の  
欠陥があつても、集った人たちが有効な発  
言をしてお互に収穫をわかちあえるよう  
にしたいということである。どうか、忌憚な  
い御意見をよせたい。

以上A B両氏の意見に対する賛否と  
同時に、今年度の宿題を何にすべきか  
の御高見を是非本部までお寄せいた  
きたい。

研究通信編集委員会